

第 2 回地域保健福祉部会（R 元. 9. 18）における主な意見

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
1	吉江委員	閉じこもりの高齢者などを、引っ張り出し活動に参加してもらうことが必要である。何か仕事をしてもらうことで認知症の予防にもなると思うので、集まって活動できる新しい仕組みができたらいと思う。そういう仕組みを行政も考えてほしい。	大阪市では、外出機会の増加や社会参加の推進を図ることで、生きがいつくりや介護予防をめざし、「介護予防ポイント事業」を実施している。また、区独自事業として、有償の支え合い活動「まちの支え合い活動（通称「あいまち」）」を展開し日常生活の“ちょっとした困りごと”の手助けを行っている。 このような制度を広く周知し、活動の担い手となっていけるよう周知方法や広報など工夫を凝らしていく。
2	山田 部会長	コミュニティーソーシャルワーカーはもう少し地域の会議等に出向いてもらい、活動内容を地域に報告する方がいい。	すでに、各コミュニティーソーシャルワーカーは担当地域を持ち活動しているが、委託先である区社会福祉協議会と相談しながら、より地域に見える支援となるような方法を考えていく。
3	笹原委員	認知症・生活習慣病の予防に食生活改善は大事だと思うが、食に関しての予算が少ないように感じる。	食生活の改善については、食生活改善推進員協議会とも連携し、生活習慣病予防を目的とした料理教室の実施や、幅広い年齢層を対象とした食育フェスタの開催などに取り組んでいる。認知症予防の観点など、さまざまな形で食生活に関わる情報発信に努めることで、食生活改善の取組みを充実させる。